

解説

人材の確保・育成から成長へ

(株)アルファシビルエンジニアリング編

(本社:福岡県福岡市)

■ 人事担当

まつもと ふみひこ
松元 文彦

(株)アルファシビルエンジニアリング
施工本部取締役施工副本部長

■ 若手

おおくほ あおい
大久保 碧

(株)アルファシビルエンジニアリング
工事部主任

人事担当の目線

人材確保に関する方針と望む人材について

人材確保のためには、魅力ある企業でなければなりません。我々土木建設業は、長年悪いイメージが続き公共投資が激減したことで、日本経済が衰退の一途をたどっています。世論のイメージを急激に払拭することはできませんが、インフラ整備は「将来への贈り物」との認識を浸透し、建設産業が日本経済を支えていることを配信し続けるように働きかけていきたいと思っております。その結果、我々推進専門業者が「誇れる仕事」として世の中に認知され、必然的に人材確保に転じるものと確信しております。望む人材については「前向きで柔軟性のある人」であり、なおかつ地下インフラに興味を持っている方、積極性や探求心が本人のスキルに繋がり、本人のやりがい生まれ、企業価値を向上させると考えております。

Q1：自己紹介を簡潔にお願いします。

入社して23年目となります。道路設計会社に勤めていた経緯より、当時「福岡人材バンク」に登録しており、そのきっかけで我が社を知ることとなりました。当時選択

した理由として、技術力が高く泥濃式推進工法のパイオニア的な存在から、ハードルが高いと認識したものの、挑戦したい気持ちが多く、他社からの内定を断り我が社に入社しました。人事担当としては、15年程になります。

Q2：人材採用はどのような方法で行っていますか？

人事採用としては、履歴書の確認を行い、何よりも面接により本人の印象、表情、仕草、話し方などに注目しています。必要に応じて作文や一般教養試験などを実施し、最終的には総合的な判断で決定いたします。

Q3：入社されない方はどのような理由で辞退しているのでしょうか？

人それぞれ理由があるかと思えます。「求職者が求める企業でなかった」「心に響かなかった」「マッチングしなかった」ものと認識しております。よく聞く話は、我々推進工事は全国各地で行われます。よって、出張・移動などで安定したパターンでの生活環境とはならない部分に抵抗がある人が多いと思えます。

Q4：若手人材の育成はどのようにしていますか？

事務所勤務が主体の人は2週間程度の社内研修を行った後、各部門に配属され、各部門の主たる業務をOJTにて実施します。

機械部門もスタートは同様ですが、社内研修後、約1年間工場勤務となります。

工事部門もスタートは同様ですが、社内研修後、現場所長の下でOJTを行います。我が社の特徴として、女性社員も含めていずれの部門においても現場見学、工場見学はもとより、現場実習や技術講習会などの受講を積極的に促進しています。

Q5：ここ5年間の若手人材の入社数と退社数はどのくらいでしょうか？

過去5年間の入社数6名、退社数1名となっています。離職率は非常に少ないと認識しております。

Q6：早期退職する若い人の理由はなんですか？

人それぞれ理由があるかと思いますが、専門職の重さがあるかもしれません。

Q7：今後の若手確保・育成についてどのようにお考えですか？早期離職防止の改善策は？

働き方改革が目指す内容として人口減少に伴う生産性の向上、働く方のニーズの多様化とあります。しかしながら、時間的な制約による生産時間の減少の中で生産性を向上させなければならないことから、企業側はより効率を求めた体制づくりが求められています。ニーズの多様化についても各人が求める内容とは逆行しております。そのような背景から部門内のチームワーク力の向上や部門間の連携が重要と判断しております。

Q8：育成した若手が活躍するためには、会社（組織）の存続が必須です。御社の将来の見通しはどのようにお考えでしょうか？

男女問わず、設計・開発・製造・施工までの一貫した責任体制と専門技術者としてのさらなる高度化により、他企業にはない高次元での設計・計画の立案による展開を実施していきたいと考えています。「アルファシビルに聞けばなんとかなる」と思われる企業として展開していくことで大型プロジェクトの受注に結び付くと考えていますし、一人ひとりが実際にそのような将来計画に携わり、実施工にも関与していくことが可能となる複数の案件が

あります。

若手の目線

学生時代の活動や建設業を選んだ理由など

私の学生時代の活動は大きく分けて3つあります。

1つ目は部活動です。私は小学生から器械体操を習っていました。高校でも器械体操部に入部し、約3年間部活動に励みました。小学生から続けていたので何度も辞めたいと思ったことがありました。しかし、親族や友達の支え、負けず嫌いな性格もあり、約10年間続けることができました。

2つ目はアルバイトです。部活動引退後に、短い期間でしたがアルバイトをしました。建設業とは関係のないアルバイトでしたが、初めて自分で働き、自分の行動に責任が伴うということを経験することができました。今となっては貴重な経験です。

3つ目は資格取得です。高校3年生になり資格取得を目指し、簿記や情報処理の勉強をしました。私は勉強もパソコンも得意ではありませんでした。しかし、就職するにあたって資格保有者が有利ということは知っていました。なので苦手ながらも一生懸命勉強に励みました。結果としては取得できた資格、できなかった資格とありますが、取得するまでにした勉強・実技は今でも良い経験になったと思います。

建設業を選択した理由は、次の項で回答します。

Q1：あなたの自己紹介を簡潔にお願いします。

入社して7年目となります。当時は土木・建築業に入社するとは思いませんでした。実際、最初に受けた会社は土木・建築業とは関係のない職種でした。その会社に落ち、あせっていたところに我が社から求人が届いたのがきっかけです。最初はマシン製作の会社とと思っていましたが会社見学に行き、説明を聞くうちに、マシン製作だけでなく設計や、施工をしたりと工事を一貫しているということを知り、興味がわきました。また弊社の仕事は